



検査情報月報 4月号 ◀ 概要版 ▶



▶ 横浜市衛生研究所では、試験検査などの結果に解説を加え、検査情報月報を発行しています。

【トピックス】 新型コロナウイルス感染症流行下における呼吸器感染症ウイルスの検出状況

COVID-19 流行以前から、地域で発生している感染症の原因病原体を確認する検査を継続的に実施して、地域の感染症発生動向のベースライン情報を蓄積してきていたことが、今回の比較調査に繋がりました。

主な結果 ▶ インフルエンザ等の多くの呼吸器感染症が減ったのに対して、風邪を引き起こすライノウイルスの検出率は、10歳未満の子供では例年の2倍以上になりました。

医動物・種類同定検査結果(令和2年10月～令和3年3月)

種類同定検査は、主に区福祉保健センターからの依頼により、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫類等を対象に実施しています。昆虫類の種類を同定することで、発生源、発生時期、人に対する害などが分かり、効果的な対策を立てることにつながります。

主な結果 ▶ 種類同定検査報告件数は、昆虫類2件(カメムシ目2件)でした。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症のまとめ 2020年分離株について

CREは、 β -ラクタム系(ペニシリン系など)の抗菌薬がほとんど効かない薬剤耐性菌です。

主な結果 ▶ 公衆衛生上問題となるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)については、分離数の多い *Enterobacter cloacae* complex は2/3がCPEでした。次に多い *Klebsiella aerogenes* は全株がCPEではありませんでした。一方 *Klebsiella pneumoniae*、*Escherichia coli*、*Klebsiella oxytoca* は分離数は少ないもののCPEが含まれており、分離された際は注意すべき菌種であると思われました。

食品中のアフラトキシン検査結果(令和2年度)

アフラトキシンはアスペルギルス等が産生するカビ毒で、発がん物質として知られています。日本では食品全般に対して総アフラトキシン(アフラトキシンB1、B2、G1、G2の合算)で10 μ g/kgの規制値が設けられています。

主な結果 ▶ 計8検体について検査を行い、ナツメグから総アフラトキシン2 μ g/kgが検出されましたが、規制値を超えるものはありませんでした。

ミネラルウォーター類の検査結果(令和2年度)

ミネラルウォーター類の規格基準が変更、あるいは新たに設定された項目を中心に検査を行いました。天然炭酸が含まれている試料もしくは炭酸が圧入され発泡性を有する試料を対象としました。

主な結果 ▶ 規格基準項目の検査では、ホウ素、マンガン、ヒ素、アンチモンが検出されました。基準値を超過した試料は、ありませんでした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報(令和3年3月)

当WEBページでは、感染症、保健、食品衛生、生活環境衛生、薬事などの情報を提供しています。

主な結果 ▶ 感染症関連の記事を中心として、総アクセス数は 361,114 件でした。